

令和7年度

鳴門市大津西小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 正確に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に重点を置き、思考力・判断力・表現力へと結びつける指導の工夫
- 学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

校長

重本 文代

学力向上推進員

竹口 磨美

【各校の取組状況の把握について】

定期的に教員相互の参観授業を実施したり、校内研修等で現状を報告する機会や意見交換を行う機会を設けたりして、改善に努める。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書が好きな児童が多い。 ●文章を読み、内容を理解することに苦手意識を持つ児童が多い。 ●文章を正しい文法、言葉遣いで書くことが難しい。	・各発達段階に応じた認知・言葉・運動の力を身につけている。 ・言葉の意味や活用を正しく理解し、使うことができる。 ・基礎・基本的な四則計算や漢字の読み書きができる。 ・文章を用途に合わせて、正しく書くことができる。	・コグトレを用いて、学習の基礎となる力を育てる。 ・プリントで繰り返し復習をしたり、AIDリルを活用したりして、一人一人の習熟度に応じた教材を提示する。 ・振り返りや日記等の作文指導を行う機会を設ける。 ・学年に応じた学力、児童の特性に応じた支援についての研修を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを持ち、友達の意見にも興味を示し、聞こうとする児童が多い。 ○友達の意見や表現物から学ぼうとする意欲的態度が育ってきている。 ●友達の前で自分の意見を発表することに苦手意識がある児童が多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、友達と意見を交換することができる。 ・自分が伝えたいことを適切な言語活動により表現することができる。 ・視覚、聴覚から得られる情報を正しく理解し、必要な情報や正しい情報を判断することができる。	・自分の意見を友達の前で発表することができたときや挙手を褒めることで、次の意欲につなげる。 ・様々な教科・学習活動の中で、ホワイトボードやICTを効果的に活用したペア学習やグループ学習の機会を設定する。 ・道徳や総合的な学習などで、情報リテラシーについて学習する機会を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に意欲的に取り組むことができる。 ●難しいと感じる問題や苦手なことに取り組むときに、自分で最後までやり遂げようとする態度に課題がある。 ●家庭学習の習慣が十分についていない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・様々な学習活動に対して、最後まで粘り強く取り組む。 ・家庭学習の習慣が定着している。(学年×10分)	・「大津西小学校学習規律」を守ることができるよう、適宜声かけを行うとともに、教室掲示や保護者への啓発等を行う。 ・児童の実態を理解し、それに合った学習内容や教材を選ぶ。 ・意欲的に取り組んだり、よい態度に対してPBSを取り入れたりすることで、児童が主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ・図書館サポーターや読み聞かせボランティア、ICT支援員の効果的な活用を図る。			